

目指す学校像	○児童にとって学びがいのある学校 ○保護者にとって頼りがいのある学校 ○教職員にとって働きがいのある学校 ○地域にとって誇りのもてる学校
--------	---

重点目標	1 ICT等を活用した「アクティブ・ラーニング」型授業及び教科担任制を通じた授業実践 2 人との関わりを大切に児童の育成を目指した生徒指導・教育相談の充実と安全・安心な学校 3 コミュニティ・スクールによる地域とともにある学校づくりの実現 4 働き方改革の視点に立った職場づくりと教職員の能力の伸長のための指導・育成
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標								実施日令和6年2月15日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査やさいたま市の学習状況調査では、国語、算数ともに全国、市平均を上回っており、概ね良好な結果である。 ○全国平均と比較し、国語、算数とも無解答率が低い。(国語-2.0、算数-1.0) ○調べたことや自分の考えをまとめたり、分かりやすく表現したりできる児童が多い。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、学習指導要領の内容において全ての項目で全国平均を上回っているが、国語の「書くこと」、算数の「変化と関係」については、他領域と比較して低い。	・ICTを活用した「アクティブ・ラーニング」型授業の実現 ・教科担任制による専門性を生かした授業の質の向上	①国語、算数において、ICT活用を活動の軸にし、発問の仕方、板書、教材教具を効果的に組み合わせた授業を実践し、自分の考えを表現できるようにする。 ②教科横断型の探求的な学びSTEAM Sタイムの単元開発を行う。	①児童向けアンケートで「ICTを活用した授業が楽しく分かりやすいと思うか。」の項目を準備し、肯定的な回答をする児童の割合が80%以上になったか。 ②各学年、さいたま市STEAMS教育の授業実施が滞りなく確実にできたか。	①今年度は全市的に行われた「学びの指標アンケート」の中にICT活用に係る項目が存在したため学校評価アンケートには組み入れなかったが、本校のICT活用に係る項目は市の平均を0.1ポイント上回ったことから一定の評価はできると判断する。 ②年間指導計画にさいたま市STEAMS教育を確実に位置づけ、各学年で実施できた。 ③教科担任制を実施することの意義の一つとして「教員に相談しやすくなる」「安心して学校生活を送ることができる」等が挙げられる。学校評価アンケートの「学校生活を楽しくしている」「授業に意欲的に取り組んでいる」「学習で適切な指導や励ましを受けている」では、いずれも9割以上の肯定的回答があり、一定の効果はあったとみている。	B	・ICTを活用した授業改善はまだまだ道半ばであるため、引き続き実践を積み上げていくとともに、全国学力・学習状況調査の結果分析を最新のものにアップデートし、それに見合う方策を講じていく。	・教科担任制は、教員の専門性を活かす、児童の学力向上に寄与する素晴らしい取組であり、本校の今年度の評価はA評価に値する。 ・仮に担任が都合で休んだとしても、数多くの教員の顔を知っている子どもたちからすれば、誰が補強に入っても全く動じない。その意味でも教科担任制(交換授業)は意味があると思う。	
2	(現状) ○児童の学校評価アンケートでは、「いじめや悩みなどの相談に応じている」項目の肯定的評価は98.5%だった。 ○学校評価アンケートの「安全・安心に気を付けている」項目では、児童、保護者、地域、教職員ともに90%の肯定的回答が得られた。 (課題) ○保護者の学校評価アンケートでは、「いじめや悩みなどの相談に応じている」項目の肯定的評価が93.1%で、児童の意識との差が生じている。 ○安全面について肯定的な回答が多く得られているものの、遊具の劣化、空き教室の整備など早急に対応すべき課題がある。	・人との関わりを大切に児童の育成を目指す生徒指導・教育相談の充実 ・安全・安心な学校生活を保証するための安全点検の実施	①関係諸機関、SL、SC、SSWと連携を図った生徒指導、教育相談、特別支援体制を実施する。 ②いじめや悩み等に迅速に対応するため、生徒指導、教育相談、特別支援に関する会議を開催し、確実に対応する。	①関係諸機関、SL、SC、SSWと連携を図って、児童の支援、相談に応じることができたか。 ②保護者の学校評価アンケート「いじめや悩みなどの相談に応じている」項目の肯定的評価が昨年度の数値を「上回ったか。	①関係諸機関等と報告・連絡・相談を密にとり、スピード感をもって対応できた。 ②学校評価アンケートの「いじめや悩みなどの相談に応じている」について昨年度が93.1%、今年度が91.8%と数字の上では下がっているが、高い値であることを考えると一定の評価はできる。しかし、この結果をまだ対応策を練る余地があるものと捉え、相談体制について一層の強化を図る策を講じていく。	B	・児童、保護者、地域の方へは相談体制について、引き続き積極的に周知を図っていく。 ・教職員には、時間に余裕を持たせることこそ、相談体制の強化につながるものと実感しているため、日々の業務を合理的に進められる方策案を練っていく。	・本校ではさわやか学習室を設けて対応しているが、次年度以降も教室に入ることができない児童への支援を引き続きお願いしたい。また、そこに入るボランティアの方との情報共有の場が十分ではないような気がするため、検討してもらいたい。 ・学習支援ボランティアの数が増えればもっと子どもたちに還元できるものがある。人材を増やしてほしい。 ・重大事態案件に該当する児童について心配である。引き続き対応をよろしく願いたい。	
3	(現状) ○昨年度、学校運営協議会を年3回開催し、学校の現状と課題、目指す児童の姿について、熟議を重ねた。 (課題) ○昨年度に引き続き、今年度も、目指す児童の姿を積極的に情報発信し、家庭、地域に広めるようにする。また、SSN等地域の教育力を活かした活動として何ができるのかを熟議し、その実現に向けた方策を定め、学校、家庭、地域それぞれの役割を明確にする。	・学校運営協議会やSSN等が連動し、学校と地域の連携からなる取組の充実 ・学校の情報発信と学校行事の充実	①学校と地域が一体となって、目指す児童像に向けた地域と学校間における協働活動の企画立案、実施準備をする。 ②学校運営協議会での熟議の実施を年3回、確実に実施する。	①コーディネーターが中心となり、9月末までにSSN等地域と連携・協働し、活動案を作成することができたか。 ②学校自己評価に係るアンケートで、「コミュニティ・スクールの一員として目指す児童の姿を共有できた」と回答する割合が80%以上になったか。	①学校地域連携コーディネーターを中心にSSN等に係る活動案を作成し、次年度以降に繋げる礎を築くことができた。 ②今年度は「あいさつ」の現状と課題を核とした熟議を重ね、目指す児童像の姿について共有をしてきた。その結果、学校自己評価に係るアンケートでは「コミュニティ・スクールの一員として目指す児童の姿を共有できた」と回答する割合が100%に達した。	A	・SSN[等]に係る活動案ができ次第、地域の方々にいち早く共有することで、教育活動における学校と地域の連携を強固なものにしていく。 ・学校運営協議会で熟議した内容を、形にすることが次年度への課題となる。実施計画も含め、まずは職員、児童、保護者へ方向性を周知し、皆で共通理解を図るところから始める。 ・情報発信については、各種便り、HPなどで引き続き積極的に行うと同時に、保護者や地域の方が学校に足を踏み入れる機会を増やしていくとも検討していきたい。	・PTAや地域ボランティアの活動は大きく学校運営に関わるものである。そのためにもコロナ禍で縮小してしまったコミュニケーションの場を増やす必要があると思う。 ・地域の中には、学習支援や環境支援に力を発揮してくれる人材が多いため、SSNが個々の活動状況をとりまとめ、皆で情報共有を図っていくことが大切だと思う。学校地域連携コーディネーターを中心に進めてもらいたい。	
4	(現状) ○管理職による授業参観を全教員1回以上行い、授業づくりチェックシートに基づき、指導助言を行ってきた。 ○大学教授の指導による研究授業や講演会、スクールロイヤーによるいじめ対応の研修会等を開催し、教職員の指導力の向上を図ってきた。 (課題) ○ICTの活用における技能の差をなくすため、さらなる校内研修が必要である。	・ICTの活用を基盤とした新しい学びへと挑戦するための指導研修の実施	①全教職員のICT技能を向上させるためにICT教育推進部主催の研修を毎学期に1回以上行う。 ②授業参観や学校公開日、校内授業研究会等の機会を捉えて、全教員がICTを活用した授業公開を年に1回以上公開し、スキルアップを図る。	①エバンジェリストを中心に教員のICT技能が授業改善に役立てられる状態になったか。 ②全ての教員がICTを活用した授業公開等を年1回以上行い、公開することができたか。	①エバンジェリストを中心に教員のICT活用研修が定期で実施され、各教員の技能習得とともに、日々の授業に役立てられる状態になった。 ②校長授業訪問では全教員の授業参観し(まだ数名、今月または来月に実施予定)、ICTの効果的な活用具合を見取り、その定着具合を確認した。	B	・教員のICT活用についての課題は解消されつつあるが、その活用の質と言う意味では、さらなる向上が求められると実感している。ついては、研修主任やエバンジェリスト等と連携を図りながら、質の向上に向けた研修の時間の確保に努め、実践に移していきたい。	・クラウドなど、ICT用語については分からない部分もあるが、時代は変わり、ICT機器が必要不可欠な時代であることは理解している。引き続き、子どもたちのためにICTの効果的な活用を意識した授業を展開してもらいたい。	